

BELIEVE

2007
春号
VOL.20



救援活動特集

- ケニア洪水救援事業
- スマトラ島沖地震・スリランカ津波災害復興支援事業

● シリーズ **情熱の白衣**・看護師レポート



大阪赤十字病院の基本理念

わたくしたちは
人道・博愛の
赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療を
めざします

患者さまの権利

1. だれもが、一人の人間として、
人権がまもられる権利を尊重します
2. 良質かつ適切な医療が、
公平に受けられる権利を尊重します
3. 医療についての情報や治療上の
説明を受ける権利を尊重します
4. 自分自身の治療について、医療行為
を選択する権利を尊重します
5. プライバシーがまもられる
権利を尊重します

「ダイヤモンド」 太田宏介 (工房まる)

暖かい春がやってきました。現在、栃木県の「もうひとつの美術館」にて「花々と鳥々と」と題した展覧会が開催されており、太田さんの植物と鳥の作品、計8点が展示されています。鳥の作品は線画で表現されていて、植物の作品とは違った仕上がりになっています。鳥たちの健気な表情にも心を打たれます。今日も太田さんは、いつものように絵画・陶芸の作品を鼻歌交じりにモクモクとつくっています。〈工房まるホームページ <http://www.maru-web.jp>〉

＋ 救援活動特集

大阪赤十字病院では、赤十字の国際活動に積極的に職員の派遣を行い、人道支援を行っていることは皆様ご存知のことと思います。これらの活動を行っている、日本にいる我々には想像がつかないもの、テレビや新聞では知ることのできないことがたくさんあります。本号では、昨年8月から6月に亘ってスリランカでの津波被害復興事業に派遣しておりました、当院の阪本総務係長、12月からケニア洪水救援にそれぞれ2か月、1か月半派遣しておりました池田看護係長と喜田臨床検査技師が相次いで帰国しましたので、以下にその報告をいたします。



青少年事業の一環で文房具支援を受けた津波被害を受けた子供たち（スリランカ）



ケニア赤十字社の協力を得て物資を搬送

療チームは、タナ川流域のガルセンにおいて、仮設診療所を設置して医療活動を行う一方、同地で車輜及びボートによる調査・巡回診療等を実施していました。ガルセンは日中の気



洪水により水没した家



ケニア 洪水救援事業

臨床検査技師 喜田 たろう

ケニアでは過去数年来の深刻な干ばつの後、2006年11月中旬頃より異常な豪雨に見舞われ、過去50年間で最悪の洪水被害が発生し、全土で72万3千人もの人々が被害を受けました。

日本赤十字社は、国際赤十字の二員として洪水被災者救援のため、オーストラリア赤十字社との合同による基礎保健ERUチームを同国へ派遣しました。今回私は12月21日から5週間同国へ派遣され、連絡調整・管理要員として活動、また調査活動の一環として現地医療機関の臨床検査施設を訪問する機会を得ました。

日本・オースト
ラリア赤十字社医

温が40度近くまで上昇する非常に環境の厳しいところでは、はるか地平線までサバナが続き、タ

ナ川にはワニやカバが生息、われわれの宿舎にもサンリヤヘビが住み、マントヒヒの群れがやってきました。私の派遣時は、ほとんど雨は降っていません。未だタナ川の水位は高く、道路わきには避難民の仮設マントが立ち並んでいました。また蚊などの虫が多く、夜間不用意に照明をつけると周りに虫柱(?)が立ちます。マラリアの流行地でもあることから、虫に対する対策は重要でした。

現地ではリフト・ヴァレイ・フィーバー(以下、RVF)と呼ばれる、蚊などの吸血昆虫が媒介する出血熱が流行していました。本疾患対策として同国保健省や他のNGOとの合意に基づき、RVF患者の後送医療施設に指定された国立病院に対する支援活動を行いました。また



臨床検査施設を訪問し聞き取り調査をしている様子

現地の医療システムが復旧するのに伴い、われわれの仮設診療所の閉鎖が決定されました。地域住民からは、診療活動継続の要望書が提出されるなどしたものの、撤収の際には混乱もなく、むしろ人々が自主的に集まり、われわれと一緒にはげたり汗まみれになりながら、撤収や後片付けを行っていたことができました。また



仮設診療所で診察の順番を待つ人々

診療所閉鎖と並行して、ケニア赤十字社のスタッフやボランティアを対象とした、診療所テナントの展開と撤収の訓練を行うこともできました。

今回初めてのERU管理要員という立場に戸惑うことばかりでしたが、経験豊富な前任者やチームリーダー、周りのスタッフの助言や支援に支えられて無事に任務を終えることができました。また「アフリカ時間」という言葉がほとんど通用しないくらい時間に正確で、責任感の強いケニアの人々にも何度も助けられました。



ケニア赤十字社のスタッフと協力して診療所を撤収

※ERU (Emergency Response Unit)
大規模災害などが発生した場合に、迅速かつ効果的に救援を行うために考案された。日赤が持ち帰る型ERUは、48時間以内で現地に展開し、かつ補給なしで最低1か月間活動可能なように全ての物品、資機材をあらかじめユニットにし、全国4カ所に配置している。



ケニア 洪水救援事業に参加して

救急部看護係長 池田 載子

昨年の12月から今年の2月までの約2カ月間、ケニアを10年ぶりに襲った大洪水の救援事業に参加してきました。アフリカではエルニーニョの影響でケニアだけに留まらず、ソマリア、タンザニアでも洪水による大きな被害が出ています。実はケニアはここ何年も早魃（かわばた）により、多くの家畜が死に、農作物にも甚大な被害をおよぼしており、水不足に悩まされてきたのですから皮肉なものです。

ケニアでは10月から12月ごろまでが小雨季、6月から9月ごろまでが大雨季でその他の期



洪水による避難民が崩れかけた堤防にキャンプしている様子



洪水でできた水溜りて水を汲む人々

間は乾季といのが通常です。しかし、昨年は小雨季にもかかわらず大雨となり、またダムの放水も重なり川が氾濫し、私が現地入りしたときには、いたるところが水浸しになっていました。川の周囲は当然護岸工事など行われてお

らず、湿地帯が広がっているため、被害はより一層深刻でした。舗装道路の周囲だけが周囲よりも高く作られていたため、道路に沿って延々と避難してきた人々の小屋が立っていました。衛生状態は悪く、道路を走ると水の腐ったような臭いが充満していま

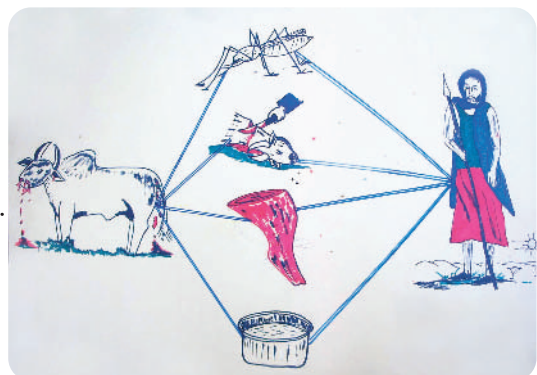
りました。当然のことながら、水道などはありませんので、家から少しはなれたところに用いています。また、トイレもありませんので、家から少しはなれたところに用を足しに行きます。洪水の後、衛生環境の悪化に伴う感染症の流行が最も恐ろしいことです。前回のエルニーニョのときにも大洪水が起こり、コレラの大



診療用テントでマラリア簡易テストをしているところ

流行のため多くの命が失われました。そこで、私たち日本・オーストラリアの混合チームはテントを設営し、保健医療活動を始めました。テントには、毎日多くの患者が訪れます。特に子供をつれた母親が目立ちました。一人の母親が何人もの子供をつれてテントにやってきました。しかし、日本とは異なり、多くの人々は洪水のため交通手段も遮断された遠くの村から、うわさを聞きつけて歩いてやってくるのです。炎天下の中、子供をつれて何時間も歩いてくるのは並大抵のことではなく、親の愛情とは深いものだ改めて実感しました。子供たちの中には栄養失調で2歳になっても立てず、歯も生えていない子もいました。しかし、幸いなことに多くの子供たちは、多少の病気はあっても比較的元気で、子供らしい笑顔を私たちに見せてくれ、逆に励まされているような気持ちになりました。

今回のケニアでの活動はテントでの診療活動の他に、ケニア赤十字と協力して避難民への保健活動も行っていました。その活動はコレラの流行の予防につながり、非常に大きな成果を上げました。また、今回の洪水ではリフトバレー出血熱と呼ばれる新しい感染症の流行があり、ケニア国内は噂



公衆衛生活動でリフトバレー熱の予防教育のために用いていた教材

が飛び交い、パニック状態に陥っていたといっても過言ではないでしょう。医療施設での感染の拡大を予防するため、診療所を二つ訪れ、看護師や医師などに感染予防の方法を指導したりもしました。このような予防活動が災害救援活動においても非常に重要であり、意義のあることだということを改めて実感しました。



リフトバレー熱の感染予防の講義中のデモンストレーション

はすぐに結果が目に見えるものではなく、ある程度の期間が必要となってきます。今回の洪水への救援活動は一応終了しました。しかし、ケニアの人々が自分たち自身でより良い生活や健康を維持していくためには、更なる困難があり、支援を必要としています。おそらく、日本にいる多くの人はケニアで洪水が起こっていたことなど知らなかったことでしょう。私自身も、自分が派遣されることにならなければ知らないままにいたかもしれません。機会があれば、今後赤十字の活動を通して、ケニアだけでなく、その他の国々にも支援していくことができると考えています。

スマトラ島沖地震

スリランカ津波災害

復興支援事業に従事して

総務課総務係長 阪本 昌代

2004年12月26日、スリランカを含むインドネシア・スマトラ島西方沖でマグニチュード9.0の大規模地震が発生し、その地震で津波が押し寄せ、スリランカでも3万人以上の死者が発生、海岸線の3分の2が被害を受け、48万人以上が家を失う甚大な被害が発生しました。被災直後は、医療支援を含む緊急支援を行ってきた日本赤十字社も、発災から2年が経過した今は、復興段階の支援を行っています。私自身は被災から1年半程経った昨年8月5日から今年の2月10日までの半年間、事務管理要員兼青少年事業担当要員としてスリランカに派遣されました。発災後、スリランカでは、最大で、各国赤十字社23社程が活動し、被災後2年経った現在もスリランカの復興に向け種々の活動を行っています。私自身11年前の阪神淡路大震災で被災しましたが、



建設された住宅の引き渡しを待つ受益者



トリンコマーレ県で行っている眼科事業（無料眼科検診）

久住居を提供する住宅事業、被災して、漁業など生活の糧を失った方の生活再建を支援する生活再建事業、病院の再建事業、病院への医療資機材の配布事業、眼科検診後、白内障患者に手術を施行する眼科事業、地域住民参加型の保健衛生事業、ライフセーバーを養成し、水の事故を予防する水上安全法普及事業、スリランカ赤十字社数支部の建設事業、災害対策事業、青少年事業などがあります。

阪神地域の復興には長い年月がかかりました。スリランカでも、同様であることを痛感した半年でした。その間、被災した海岸線を何度か見聞する機会がありましたが、2年たった今でもキャンプ、もしくは仮設住宅での生活を余儀なくされている方、仮設住宅に住みながら永久住宅の建設を待ち望む方が大勢おられる現実、また津波被害を受けたまま野ざらしになっている住宅を多く目にします。その他、スリランカでは長年に亘る「TTP（タミル・イラム解放の虎）」と政府軍との紛争や、雨期の長雨の際には洪水の被害など、日々の暮らしにおいても各国赤十字社が多くの緊急支援を並行して行っています。

現地での日赤の復興事業には、被災した方に永



ガンパハ県で行っている水上安全事業（ライフセーバーの養成）

私以外に日赤から4人、住宅事業のコンサルタントが1人、計6人が各事業を受け持ち、各事業の計画案・予算案の策定、承認作業、事業の実施、事業進捗のモニタリング、予算（経費）の管理、報告書の提出、次年度予算の策定などを行いつつ、日赤とスリランカ赤、双方と緊密に連絡をとりながら、現地のスリランカ人スタッフを中心に事業を実施し、3年間〜5年間に亘る各事業を今後も遂行していく予定です。

私が担当していた青少年事業は、日赤とスリランカ赤の二国間事業の一環で、スリランカ赤十字社の青少年部門を強化するために2005年11月から3年に亘り支援している事業です。スリランカで、青少年事業を根付かせる組織基盤強化、また日本の子ども達との交流も目的に種々のプログラムを計画・実行しています。



青少年事業の一環で開催した全国青少年スポーツ大会開会式

の努力・忍耐と長い年月が必要になります。今後、紛争で復興事業が阻害されることなく、国民が一致団結して復興、再建に向け取り組まれていくことを切に願っています。

また、事務管理要員としては、日赤スリランカ事務所全体で使用する資金の管理・支出・管理帳簿の作成、要員の契約更新（延長）に伴うビザ更新・新規要員の入国（受入れ）準備、現地スタッフの雇用・更新・要員が利用する車の配車、メンテナンス、要員が住む住居の環境整備（契約・更新・解約作業）、関係機関との連絡調整、スリランカ事務所全体の事務業務、ホームページの更新、備品管理・備品台帳の作成等、種々の業務があります。

日本赤十字社ロジスティクスセンター完成



この度、病院から道路を隔てた南向かいに建設しておりました災害救護倉庫「日本赤十字社ロジスティクスセンター」が完成しました。災害専用倉庫としては国内最大級のもので、この中には、災害用トラックをはじめとして、当地域が被災した場合に大阪赤十字病院が即時対応できるよう、様々な災害医療機器を整備してあります。

建物は、阪神淡路大震災級の地震にも耐えられる構造で、内部は一定以上の温度になると自動的に換気扇が回って空気の入替えをになっています。倉庫正面は、車両がすぐに出動できるよう全面シャッターになっており、停電時には、発電機や手で開閉ができます。また、内部には地域住民の皆様をお守りするために、水を1万2千ボトル、緊急セットや日用品セット、毛布などを1万セット以上備蓄してあります。

国際医療救援部では、今後も日赤大阪府支部と共同で資機材や備蓄物資の整備を行い、災害救援拠点病院として、災害発生の際にも、皆様方に安心していただけるよう体制作りを進めていきます。

シリーズ 情熱の白衣
医師の素顔②

●幼い頃の憧れをめざして●



後の小学校2年生時の絵日記で、「ほくもお医者さまになり、たくさんの人を助けてあげたいです」と記していた。

大学院時代は恩師榎良教授の下で病理学を専攻。その後、母校の付属がんセンター助手を務めながら、癌研付属病院(東京)での研鑽などを積み、当院へ内科医師として着任。内科部副部長、その後第一消化

あらゆるものに対する好奇心で心の通う医療を目指したい。

いつも身近にあった世界が「医師」になる道づくりに。

「小さい頃、僕は病弱でね、よく医者に掛かりました。ホームドクターは、でっぷりとした、まるで布袋さんのような体型の方でね、深夜に叩き起こした時でさえ、快く笑顔で診てくださる優しい方でした」。医師という仕事を選んだきっかけを尋ねると、幼少の頃の出来事を昨日のことであるかのように、鮮明に懐かしむように次々に語ってくれた。幼い頃、父が病気がちで、また自身も病弱であったことから、医療の現場が、いつも身近にあったとのこと。「医者とは、いつも笑顔で、家族や自分達の病気を治してくれる、頼もしく、不思議な存在でした」とも。そんな医師の姿への憧れを、父亡き

検査部長

福山隆之

器科部副部長を経て、現在は検査部長に就任中。検査部は約50名の職員から成り、検体検査課と生理検査課に分かれ、臨床各科からの依頼に応じ、正確で迅速な検査結果を報告するなど、放射線科とともに病院機能を支える重要な部門である。それだけに、院内の各科との円滑な連携化とともに、信頼性を保つことに努めているとのこと。その思いの先に、院内外を問わず、患者様や医療関係者をはじめ、多くの人々に溶け込んできた福山医師の医療現場での姿がある。

「好奇心」や「関心」が人をつくり人生を豊かにしてくれる。

「『好奇心』や『関心』という言葉が好き」という。とりわけ、この『好奇心』



この冬、たわに実った金柑。チャレンジ中のぶどうは新芽が膨らみ始め、今年こそ!との思いです。

が福山医師をつくり上げてきたようだ。「物であれ生き物であれ、その内部を知りたかったです。とりわけ機械類に関心があり、オルゴール時計やラップ型蓄音機、オルガンなどを片っ端から分解していくゴタくれで、それらの巧みな仕組みに感心していました」と。「なぜ?」という問いに心を動かされるままに過ごしてきたことが、仕事や趣味につながり、福山医師をつくり、その日々を彩っている。

「アンカレッジから欧州への途上、北極海の上空でエンジンストップの恐怖に遭いながらも、旅が好きです。国内では厳冬の北海道が好きで、この冬もアスピリンスノーを胸一杯に吸込んできました」、「果樹作りも好きですが、ぶどう栽培は失敗続きで今年も挑戦中」、「日曜大工も大好き」とも続き、



PROFILE TAKAYUKI FUKUYAMA

7月20日、大阪府生まれ。大阪府立大手前高等学校卒業。奈良県立医科大学・大学院卒業。同大学付属がんセンターに勤務。昭和53年大阪赤十字病院内科勤務。内科部副部長、その後第一消化器科部副部長を経て、平成17年検査部長に就任。現在に至る。

看護師レポート

心ゆるる日々

20

元気に産まれてくるように大切にしたい、一期一会の出会い

上村千佳



PROFILE

5月18日、鳥取県生まれ。鳥取赤十字看護専門学校卒業。鳥取県立倉吉総合看護専門学校 保健助産学科卒業。平成15年4月大阪赤十字病院(産婦人科病棟)勤務。現在に至る。

もともと看護師になりたい、とは思っていませんでした。「資格」を活かせる仕事に就きたくて、何だろう?と考えたときに「看護師」かな、というの間にか選んでいた感じですね。出産つて、人生の一大イベント。そこに立ち会えることは、本当に感動の体験です。分娩はわたしたち産婦人科看護師の仕事のひとつですが、毎回毎回の仕事で印象に残っていますね。



お子さんを出産された患者さんと、先輩と後輩とのうれしい瞬間。

最近の後輩もでき、仕事を教える立場になりましたが、教えるつて難しいですね。わたしの今一番の課題が「後輩への指導」です。「自分はどうやってクリアしたんだろう?」こんな時先輩はどう教えてくれたかな?と後輩の姿に当時の自分を見ている気持ちになりますね。「初心を忘れちゃいけない」と振り返っては改めて考えさせられています。現在、月に50件ほど出産があります。先輩・後輩に教え教わりながら、ひとりひとりの患者さまに満足のできる仕事をしたいことがこれからの目標。小児科がしっかりと出産当院だからこそ、安心して産まることができる環境の中で元気に産まれてくるように。もちろんわたしも一生一度は出産を経験したい。そして生涯を通して助産師の仕事をやりたいと思っています。



サプリメントの利用法

メタボリックシンドロームという言葉が、あちこちで聞かれるようになった今日この頃。ダイエットや、健康のために、サプリメントを利用している方も多いかと思えます。

いわゆるダイエット用サプリメントには、脂肪を排出する、糖分の吸収を抑える、基礎代謝をアップするなど、さまざまな効果が出る仕組みがうたわれています。

しかし、ほんとうに効くものであれば、サプリメントではなく医薬品になっているはずで、多少の補助効果は期待できたとしても、「飲めばそれだけで痩せるサプリメント」などという都合のよいものは存在しません。だからと



おくすり
三三知識

いって、まったく不要かというところというわけでもありません。

例えば、ダイエットの方法として多くの人々がまず実行するのが食事制限ですが、ご飯を一切食べないとか、ある特定の食べ物だけを食べるなど、極端な食事制限を行うと、ビタミンやミネラルなど、生体に必要な栄養素の摂取量が欠乏して、深刻な体調不良に陥ります。そこまで極端でなくても、ビタミンやミネラルの一部が不足することで代謝機能全般が低下して、せっかくの減量効果が出にくくなることがあります。

また、日頃服用するお薬の一部には、ビタミンやミネラルの吸収や排泄に影響するものがあります。それらのお薬を長期に服用する事により、薬剤性のビタミン、ミネラル不足が起こり、副作用としてさまざまな症状を引き起こすことがあります。

ビタミンやミネラルは、食事によって摂取することが理想ですが、このようにダイエットをする時や、治療に必要なお薬を服用している時は、サプリメントを利用するのも一つの方法でしょう。

サプリメントは摂取目安量を守っている限り、大きな問題はまず起こりませんが、お薬との相互作用があるものもありますので、服用の際には、医師、薬剤師に相談していただくのが安心だと思えます。
(薬剤部 藤井幹子)

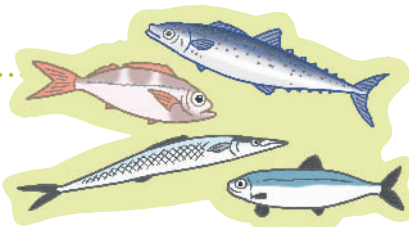


旬のウマい魚を食べよう

栄養管理課 管理栄養士 谷口留美

日本人にとって、きつてもきれいな食べ物と言ったら「魚」です。以前に比べると魚離れの傾向にありますが、健康な体を維持していくには積極的に摂っていただきたい食材です。この魚介類にも一年のうちで一番美味しい季節があります。美味しい季節はその魚がたくさん水揚げされる時期と一致していることが多く、旬の魚は安くても美味しいことになりやすい。魚は鮮度の保てない食材なので、新鮮なものを食べて、春を味わってみてください。

さわら 鱈
冬は深所で過ごし、4〜6月ごろ内湾に入り、産卵し多くとれるので『春』の名がつけられました。ぶり等と同様の出世魚で、50cm位までを『わらじ』、70cm位までを『やなせ』、それ以上を『さわら』と呼びます。
目利きポイント 新鮮なものは皮肌張りがあり、背中の斑紋が鮮やかで腹側の銀白色との対比がはっきりしています。また、血合いの色もきれいです。



目利きポイント 赤メバルより黒メバルの方が脂がのっており、やや小型の20cm程度の方が美味しいです。目がぱつぱつしていて黒目と白目のはっきりしているものが良品で、全体として体色の濃い物が新鮮と言われています。

さより 細魚
スマートな細長い体で、下あごがくちばし上に伸び、その先端が橙赤色になっているのが特徴です。体色は青銀色で下方は透き通り大変美しい魚で、肉質はよくしまり、あっさりとした上品な味です。
目利きポイント ウロコの色が鮮やかで、透明感があるものが美味しいです。身がピンと張っていて、腹が白いものを選びましょう。

にしん 鯨
『にしん』は北の代表的回遊魚で、春をつれて来る魚という事で『春告魚』とも記されます。『にしん』といえは『数の子』ですが昔は『しん』の事を『カド』といひ、『カドの子』がなまって『かすのこ』になったとゆいひです。
目利きポイント 腹がしっかりと開いて輝きがあり、ウロコがついているものが美味しいです。鮮度が落ちるとエラに血の滲みがあります。

認定看護師の役割って？

認定看護師 (Certified Expert Nurse) とは…日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践ができる者をいいます。認定看護師は看護現場において実践・指導・相談の3つの役割を果たすことにより、看護ケアの広がりや質の向上を図ることに貢献します。現在特定されている認定看護分野は17分野あり、当院では、創傷・オストミー・失禁 (WOC) 看護2名、がん化学療法看護1名、感染管理1名、救急看護1名、手術看護1名、ホスピスケア1名の認定看護師が活動しています。今後も他分野の認定看護師が誕生する予定です。



●●● ～ホスピスケア認定看護師の場合～ ●●●

12階B病棟 佐々木圭子

私は、平成18年に日本看護協会から認定されたホスピスケア認定看護師になりました。私がホスピスケア認定看護師を目指したのは、一般病棟で多くの方を看取る中で、身体的・精神的苦痛症状が緩和されないうまま死を迎えられる方々が多く、自分自身十分なケアができなかったことに無力感やジレンマを感じていたからです。そこで、患者さまが最期の瞬間までその人らしく生きるためには、どのようなケアをすればいいのかわかりたいという想いからでした。

現在、ホスピス・緩和ケア施設が全国的に普及されつつありますが、やはりがん患者さまの殆どは一般病棟で最期のときを過ごしています。ホスピスは、施設や建物をさすものではなく、ホスピスケアや緩和ケアも特定の場所で提供されるケアではありません。ホスピスケア・緩和ケアとは、がんを診断されたときから治療の時期、最期のその一瞬までずっとその人がその

人らしく生きられるように心身の苦痛症状を積極的に緩和し、患者さまとその家族を含め支えていくケアです。

以前、がん診断時から治療を経て、終末期まで当病院で過ごされた方が、このままなじみの病院で顔なじみのスタッフの中で最期を迎えたいと言われたことがありました。急性期病院である当院だからこそ、がんの診断を受け、治療の期間、そして最期まで患者さま家族に寄り添うことができることを再認識した言葉でした。病院として、がんという進行性の病気と共に生きる患者さまそれぞれの方がもつ不快な身体症状や不安が軽減され、患者さまの意思が尊重された治療やケアが提供され、出来る限り最期まで望まれる生活を送ることができるように関わっていくことを目指しています。

がんは家族の方にも大きく影響を与える病気です。そのため、家族の方への精神的・社会的サポートも重要と考えています。現在、病院では多職種で構成された院内のがんサポートチームが発足し、患者さまとその家族が抱える心身の苦痛症状の緩和など様々な相談に対してチームでサポートしています。私もその一員として微力ながら活動しています。2階の総合相談窓口で予約を受け付けていますので、相談を希望される方は院内外を問わず地域の方も気軽にお尋ね下さい。

人は必ず死ぬ存在ですが、私は「死を前提として生きる人」と向かい合うとき、「死に逝く人」ではなく、「今を生きる人」として向かい合い、その人とその家族の方と共に「今をどう生きるか」ということを考え、歩んでいきたいと思っています。

TOPICS BOX

トピックス&ニュース

大切なお知らせ

～4月1日から初診時(紹介状なし)の患者さまの負担が変わります～

4月1日から初診時にかかる保険外併用療養費が5250円に変更になります。保険外併用療養費とは、初診時、他の医療機関からの紹介状を持たずに、病院(ベッド数200床以上)にかかる場合に発生する、健康保険がきかない費用のことです。紹介状をお持ちの方は、5250円のお支払いはありませんので、初診の際には、他の医療機関からの紹介状をお持ちになることをお勧めします。

『週刊朝日 手術数でわかるいい病院2007』(3月5日発行)にランクイン!

今回も以下のとおり多数ランクインしましたので、お知らせいたします。今後も、患者さまに高度の医療を提供できるように、一層努力してまいります。

〈全国ランキング〉

- 耳鼻咽喉科・鼓室形成術等……………1位
- 消化器科・肝がん ラジオ波焼灼術……………3位
- 整形外科・人工関節置換術 膝関節……………14位
- 血液内科・血液がん治療……………18位
- 外科・肝がん 肝切除術……………30位
- 外科・胃がん 手術……………39位



マスクの自動販売機を設置しました

本館1階北・南玄関、2階総合案内横にそれぞれ1台ずつマスクの自動販売機を設置しました。熱や咳がひどい方、インフルエンザやおたふく風邪など周りの人にうつす可能性のある病気の疑いがある方は、マスクを着用するようにしましょう。

本館2階西玄関を利用できるようになりました

3月1日より平日7:00～20:00の時間帯のみ、本館2階西玄関を開放しています。上本町側からお越しの方は、西玄関をご利用になれると便利です。休日・夜間のご利用できませんので、お間違えのないようお願いいたします。



GAP第2期生が活動開始!

GAP第1期生のスティービーが2月でボランティア活動を終え、3月から新たに第2期生のジョアンとレイチェルが当院にやってきました。病棟や外来で患者さまの介助などのボランティア活動に励んでいる彼女たちを見かけられたら、気軽に声を掛けてください。日本語の勉強も頑張っています。

ジョアン・ボーズ



こんにちは、ジョアン・ボーズです。ロンドンより北へ1時間のエールズベリーから来ました。両親と妹、3匹のつともがわいくて元気なシャム猫と暮らしています。文章を書くこと、絵を描くこと、そして読書が好きです。特に好きなのは、ファンタジーの世界。文章を書くときにもファンタジーが中心です。ずっと前から日本に来てみたいと、今こうしてここにいます。聞いていたとおり、文化的で楽しい場所ですね。大阪の家からは神社と3つの高いビルが見え、そのコントラストも好きです。日本での滞在中に多くのことを見聞きできるのを楽しみにしています。この機会を与えていただきありがとうございます。

レイチェル・ティーン



こんにちは、レイチェル・ティーンです。イギリスのロンドンから来ました。3月より6カ月間当院でボランティア活動をし、大阪で生活します。日本に来ることは私の夢だったのでとてもワクワクしています。6カ月後は、イギリスの大学で環境科学を勉強する予定です。というのも私たちが住む世界は手遅れになる前に保護する必要があると信じているから。編み物、音楽、詩を書くこと、友達とおしゃべりをするのも好き。友達や家族と離れて寂しいけれど、大阪赤十字病院で温かい歓迎を受けて感動しています。日本語を学びながら病院で多くを学べることを楽しみにしています。日本語も日々上達しているので、病院で見かけたら声をかけてください。

Spring コンサート

春の陽気を感じるようになってきた、3月24日(土)の午後、当院2階総合ホールにおいて、堺市音楽団有志によるフルートとクラリネット演奏のコンサートを開催しました。「ジュピター」などのフルート演奏、アルプスの少女ハイジの「おしえて」などのクラリネット演奏に続き、フルートとクラリネットの合奏で、SMAPの「世界に一つだけの花」が演奏され、知っている歌に口ずさむ患者さまもおられました。そして最後に、子どもたちからのアンコールに応え「大きな古時計」が演奏され、楽しい時間はあっという間に過ぎました。美しい音色がいつまでも耳に残る、そんなコンサートでした。



ラジオ番組「むっちゃん健康」に当院の職員が出演中

毎週土曜日11:00から放送のラジオ番組「むっちゃん健康」(ラジオ大阪1314 KHz)に4～7月まで当院の職員が出演します。様々な病気の予防法や治療法などを、医師・看護師・薬剤師等がわかりやすくお話しします。どうぞ期待!!

編集後記

報道で桜の開花予想がされると、もう春なんだと感じます。お気に入りの穴子天丼を食べて、清水寺へ行こう。途中で蕨餅も食べたいな。銀閣寺から哲学の道へのんびり歩くのもいい。春は、気温の上昇とともにウキウキ度もアップする季節だと思えます。また、別れと出会いが多いのも春です。学校を卒業して進学する人、就職する人。職場で人事異動があった人。慣れ親しんだ土地や友人、学校や職場から離れるのは切ないものです。その反面、出会いや新しいことにチャレンジする、ワクワクする気持ちもあつたり、春はいろんな気持ちが入り混ざる季節なのでしょう。満開の桜のように、どんなときも前向きに笑顔で過ごしたいものですね。

(A.M)

Table with columns: 科目, 曜日, 月, 火, 水, 木, 金, 備考. Rows include: 消化器科, 消化器科(肝臓外来), 糖尿内科, 内分泌内科・肥満, 血液内科, 免疫・リウマチ内科, 腎臓内科, 循環器科, 心臓血管外科, 小児科, 小児外科, 外科, 整形外科, リハビリテーション科, 脳神経外科.

Table with columns: 科目, 曜日, 月, 火, 水, 木, 金, 備考. Rows include: 神経内科, 呼吸器科, 呼吸器外科, 産婦人科, 泌尿器科, 眼科, 耳鼻咽喉科気管食道科, 皮膚科, 形成外科, 精神神経科, 放射線科, 歯科口腔外科.

■当館は全面禁煙です
No smoking sign icon.

※異動等により変更になる場合があります。下記ホームページの各診療科のご案内をご覧ください。
●お問い合わせ
☎06-6774-5111(代表)
○受付時間(月～金)
●休診日
●診察券

■入院のご案内
●平日/14:00～19:00 休診日/10:00～12:00, 14:00～19:00
●小児病棟(平日・休日とも)/14:00～19:00
■保険証等